

校種・学年・教科等名：小学校、6年、学級活動

実践名：「ネットで出会った人との約束」

## 小学校第6学年 学級活動 学習指導案

日時：平成23年9月8日（木）

場所：6年1組教室

授業者：6年1組担任 教諭 河野 圭一

### 1 単元名 「ネットで出会った人との約束」〈(2)ーカ〉

#### 2 単元（主題・題材）について

##### (1) ねらいについて

小学校学習指導要領では、コンピュータの基本的操作や情報モラルを身に付けることが明記され、学習指導要領解説「特別活動編」には、学級活動の内容として情報モラルに関する指導が挙げられている。

携帯電話やインターネットの普及率は年々増加し、それに伴って犯罪行為をはじめ、さまざまな問題も増加している今日である。

平成22年度熊本県公立学校いじめアンケート調査結果によると、「インターネットに接続できる携帯電話やパソコンを持っている」と回答した児童は全体の38.3%という高い割合を占めており、それに伴って「ネット上のいじめを受けたことがある」と回答した児童は0.1%という結果であった。

警視庁の平成22年度下半期のコミュニティサイトに起因する児童被害の事犯に係る調査分析によると、出会い系サイトに係る犯罪件数は最近では減少しているが、その反面コミュニティサイトに関係する被害者数は増加しており、中でも身分を偽って児童と会おうとした事例が42%報告されていることを深刻に受け止めなければならない。

このような実態から小学校の段階から携帯電話やインターネットの利点や欠点、使用する際の注意点などを十分に指導する必要があると考える。

小学校高学年の時期は、様々な教科で調べ学習などを行い、インターネットを活用する機会が増える。また、県教委の調査では携帯電話の所持率も中学生になると倍増している（同上調査）。行動範囲が広がり、携帯電話やインターネットを利用する機会が増加するこの時期に、携帯電話を持つ目的や正しい使い方、携帯電話やインターネットを使用する際の注意点などを学習する意義は大きいと考える。

##### (2) 系統について

3年生 道徳  
「二つの声」  
勇気

危険に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する。

4年生 道徳  
「日曜日のバーベキュー」  
公德心・規則の尊重  
危険に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する。

5年生 総合  
「そのページ、開いて大丈夫？」  
インターネット上には、さまざまな有害情報があることを知り、そのような情報に出会った場合の適切な対処法を考えることができる。

6年生 学活  
「ネットで出会った人との約束」  
ネット社会の特性を知り、インターネットの向こうにいる相手に会ったり、個人情報をお教えたりしない態度や判断力を身に付ける。

今回の学習では「事例で学ぶネットモラル」（広島県教科用図書販売株式会社）の「えっ！こんな人だったの！」を使用する。この教材は、アニメーションで資料を提示でき、小学校段階の児童にも理解がしやすいと考えた。

はるかは大のハムスター好きな女の子である。ある日飼っていたハムスターの元気がなくなる。そこで、以前見たことのあるハムスター好きの人が集まる掲示板の事を思い出す。早速そこにハムスターの症状を書き込むと「ハム男」と名乗る人物から返信がある。そこに書いてあることをハムスターに試してみると、ハムスターは元気を取り戻す。うれしさと感謝の気持ちからはるかは「ハム男」のメールアドレスにお礼を書き込んでしまう。次の日、「ハム男」から「会おうよ」とメールが来る。多少の不安があったが「きっといい人に違いない」と思い、会うことを承諾してしまう。さらに相手の言うままに、外でも連絡できるように「携帯アドレス」もメールで教えてしまう。次の日待ち合わせ場所に待っていたのは中年のおじさんだったという話である。

ここでは、ネットで出会った人に会ったり、メールアドレスなどの個人情報を教えたりしてはいけないことを学習する。インターネットは、瞬時に必要な情報を入手できるなど利点も多いが、情報の信憑性や匿名性が高いことなどの問題点もある。また、簡単に個人情報を相手に知らせてしまうと思わぬ被害に遭うこともある。コミュニティサイトに関する被害に遭った児童のうち「学校でサイト利用について指導を受けた」と回答した児童は 39.8%であったことから、これらインターネットの利点と問題点を今の時期に指導しておくことは大切であると考え（警視庁、平成23年）。資料を途中で止めながら提示し、児童がその後の展開がどうなるかじっくりと考えられるようにしたい。

### （3）児童の実態について

（男子 13 人 女子 15 人 計 28 人）

（調査実施は 28 人）

携帯電話を持っている。	7 人	25%
家庭でインターネットができる。	18 人	64%
携帯電話でメールをしたことがある。	10 人	36%
家で携帯電話を使う時のルールがある。	3 人	11%
家でインターネットを使う時のルールがある。	7 人	25%
「学校裏サイト」を知っている。	0 人	0%
「掲示板」に書き込みをしたことがある。	0 人	0%
<b>インターネットや携帯電話を使う時のおもなルール</b>		
・使う時間を守る・使う場所を守る・保護者と一緒に使う・使う機能を決める 等		

実態調査結果から

- ・携帯電話を所持している児童は 7 人（25%）でインターネットに接続できる家庭の割合は 64.3%である。
- ・家庭で携帯電話を使う時のルールがある児童が多いが、実際はチェックが行われているわけではない。
- ・掲示板や学校裏サイトに関する知識や経験がほとんどないため、現時点での的確な指導が必要かつ大変重要であると考え。
- ・日々の生活では、男女関係なく遊ぶ姿が見られ、携帯電話を所持している児童同士ではメールのやり取りも行っている。

#### (4) 指導にあたって

- ・情報機器等の使用経験や使用環境の違いから、結果を想像する力に個人差がみられる。そのため、情報通信社会の特性を導入で指導する。
- ・児童が遭遇する情報モラルに関する判断場面が多岐にわたるため、情報通信社会の仕組みを理解させることで、新たな判断場面でもこれまでの学習や経験をもとに判断ができるようにさせる。
- ・教材の中だけでの話としてではなく、自分が本当にその場面に遭遇したらどうするかという視点で考えさせる。
- ・授業は一斉指導の形態を基本に行う。

#### (5) 情報モラル教育の視点から

- ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「3. 安全への知恵」、項目「d3-1: 予想される危険の内容がわかり、避ける」との関連を重視して展開する。
- イ 本時は情報モラルの内容を題材化して授業を行う。ネット上の掲示板は大変便利であるが、匿名性が高いことや情報の信憑性、不特定多数の人が見ることなどの点を考慮して書きこみをする必要がある。また、個人情報を求められた時等の対処法について日常モラルを基に身近なことと絡めながら指導していく。
- ウ 導入部分では、インターネットの利点について学習する。
- エ インターネットの使い方だけでなく、お金の使い方などの日常モラルとも関連させて考えさせる。
- オ インターネットの特性である情報の信憑性と相手が誰だかわからない点について指導を行う。その際に、個人やグループで起こりうる事態をしっかりと考えさせる。
- カ 実際に被害に遭った児童の 15.8%が「サイトの事について教えてもらっていたが自分は大丈夫だと思った」と回答していることから、自分の生活の中でいつこのようなことが起こるか分からないことを十分に伝え、真剣に考えさせる。
- キ 児童が情報通信社会に意欲的に参画していくために、利点と問題点のバランスを考えて指導を行う。

#### (6) 人権教育の視点

- ・自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。
- ・他の人の意見も尊重しながら、一緒に学習しようとする態度を育てる。
- ・物事を自分自身のことに置き換えて考え、自分を大切にすると同時に他の人を尊重する態度を養う。

### 3 単元の観点別評価

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
ネット社会の特性に関心をもち、どのような行動をとるべきか考え、積極的に学習に参加することができる。	ネット社会の特性をもとに、自分の取るべき行動を考え、適切に判断し行動することができる。	インターネットで知り合った人と簡単に会ってはいけないうことや個人情報は教えてはいけないことを理解する。

#### 4 単元の指導・評価計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価項目（方法）
1	1	インターネットで知り合った人に対する正しい対処法を学び、個人情報を簡単に知らせてはいけないことを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネット社会の利点と欠点のバランスを考えて指導を行う。</li> <li>・ ネット社会について日常の生活と重ねて考えさせ、使用するための適切な目的や方法を考えさせる。</li> </ul>	<p>A ネット社会の特性からインターネットで知り合った人と簡単に会ってはいけないことや個人情報は教えるてはいけないことを理解する。（シート・発言）</p> <p>B インターネットで知り合った人と簡単に会ってはいけないことや個人情報は教えるてはいけないことを理解する。（シート・発言）</p> <p>支援：相手が見えないことや個人情報が漏れたらどうなるかを具体的に考えさせる。</p>

## 5 本時の学習（1 / 1 時間）

### (1) 目標

ネット社会の特性を知り、インターネットの向こうにいる相手に会ったり、個人情報 を教えたりしない態度や判断力を身に付ける。

### (2) 展開

過程	学習活動と おもな発問	児童の反応	指導上の留意点と 評価	備考
導入 5	① ネットの利点について考える。 ・ ネットがあると便利だと思ったことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べ学習の時使いました。</li> <li>・ いろいろな動画を見たよ。</li> <li>・ 音楽をダウンロードしたよ。</li> <li>・ 天気予報を見たよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットの利点を十分におさえる。</li> <li>・ 家庭でネットができない児童にも学校のこと等で考えさせる。</li> <li>・ 掲示板について説明する。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           学習課題            ネット上で他の人と情報を交流する時にどんなことに気をつけなければならないか考えよう         </div>				
展開 5	② 教材の前半部分を見て問題点を考える。 ・ 誘いのメールがきた時の はるかさんの気持ちを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハムスターを助けてくれてありがとう</li> <li>・ 優しい人だ。</li> <li>・ いい人だな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前半部分だけを見せ後半部分を想像させる。</li> <li>・ 自分が助けてもらった時どんな気持ちになか、日常の生活と重ねがら考えさせる。</li> </ul>	PC 電子 黒板
10	③ この後どうなるか考える。 ・ 「ハム男」に会いに行った はるかさんはどうなったと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 怪しい人が来た。</li> <li>・ 怖い目に会った。</li> <li>・ メールがいっぱい来るようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えを想像力を働かせて書かせる。</li> <li>・ 班で話し合わせ、友達の意見も参考にさせる。</li> <li>・ 電話番号を聞かれた経験等を思い出させる。</li> </ul>	
20	④ 正しい行動について考える。 ・ はるかさんはどのような行動をとればよかったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手が見えないからいい人とすぐ思っはいけない。</li> <li>・ どんな相手でも個人情報は教えてはいけない。</li> <li>・ 知らない人と子どもだけで会ってはいけない。</li> <li>・ ネット上の情報をすぐ信用してはいけない。</li> <li>・ ネット上の情報は本などでも確認する。</li> </ul>	評価 A ネット社会の特性からインターネットで知り合った人と簡単に会ってはいけないことや個人情報は教えてはいけないことを理解する。(シート・発言) B インターネットで知り合った人と簡単に会ってはいけないことや個人情報は教えてはいけないことを理解する。(シート・発言) 支援：相手が見えないことや個人情報が漏れたらどうなるかを具体的に考えさせる。	
終末 5	⑤ ネットで情報交換をする時の注意点についてまとめる。 ・ ネットで情報交換する時の注意点についてまとめましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットは相手が見えないからすぐに信用してはいけない。</li> <li>・ 個人情報はどんな場合でも簡単に教えてはいけない。</li> <li>・ 情報を簡単に信じないで、自分で判断する力をつけないといけない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネットはその他の道具と同じで、正しい使い方を考えることが大切であることを知らせる。</li> <li>・ 使い方を決めるのは自分自身であることをおさえる。</li> </ul>	

## 6 モデルカリキュラムでの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a3：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	道徳 礼儀は心のあらわれ「江戸しぐさ」 ・礼儀
b3：情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	図工 「心広がる場面」 ・それぞれの作品を鑑賞しながら思いの違いやそのよさを認め合っている。
c3：情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	道徳 生活を見直して「けいたい電話を持たせない」 ・節度ある生活態度
d3：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	国語科 「自分の考えを発信しよう」 ・図書やインターネットや資料から情報を集め、自分の考えの裏付けや立場をはっきりさせて発表する。 <b>学級活動</b> 「ネットで出会った人との約束」 ・ネット社会の特性を知り、インターネットの向こうにいる相手に会ったり、個人情報をお教えしたりしない態度や判断力を養う【本時】
e3：情報を正しく安全に利用することに努める。	
f3：安全や健康を害するような行動を抑制できる。	保健 病気の予防「生活行動がかかわって起こる病気の予防」 ・生活習慣病など行動様式が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事や口腔の衛生など、望ましい生活習慣を身に付けることが必要であること。また、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること
g3：生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
h3：情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	
i3：情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。	総合的な学習の時間 「インターネットで調べよう」 ・インターネットで集めた資料や画像の保存の仕方を身に付けるとともに、情報収集の際の注意事項（著作権等）を知る。